

第11回 校長会議あいさつ

R.6.1.24 稲垣

先日日曜日の「にしおマラソン」は、あいにくの悪天候でした。しかしながらそれを払拭して余りある立派な大会となりました。スタート地点やゴール地点でのDJケチャップさんの沸騰するような言葉のスコール。とりわけスタート時の「大人はついつい言い訳をする。けれどもそんな言い訳をしないで今あなたはここにいる!」この絶叫は、雨に凍えるランナー皆の心を熱くし、炎をかき立てたに相違ありません。さらにはゲストランナーの野口みずきさん達の激励も交えて、幾度となくランナーを鼓舞し、それに呼応した約4400人のランナーたちの思いが天に届いたかのように、号砲時には雨も一旦止み、笑顔いっぱいスタートとなりました。そして、95パーセントの完走率も大会の成功を物語っていました。

2キロ・5キロ・車椅子の部のレースでは、降りしきる雨の中、それをものともしないランナーの皆さんの雄姿が輝きました。その中でも大人や高校生に混じりながら、顔を紅潮させてゴールする小学校低学年の子どもたちには、思わず目頭が熱くなりました。「可愛い子には旅をさせろ」の子育てをすることが難しい時代です。私としては、何よりもこのコンディションのレースに子どもを送り出した、保護者の方たちの愛情に頭が下がる思いでした。

540人余の中学生ボランティア、さらには沿道では小学生たちも応援に加わり、参加されたランナーの皆さんに感謝されました。また、市長はじめ大会関係者の方々も感心してみえました。冬の雨風に負けないで走るランナーの姿を間近に見ること、そしてそれを応援する体験は、子どもたちにとっても確かな成長の糧となるものと確信します。教育面からも意義豊かな大会であったと思います。

元日の地震では、突然響いた警報音に、肝を冷やしました。被災地の能登では、正月休みの帰省先で被災された方さえみえました。津波の被害に加えて、震度6強を超える揺れは、家屋を倒壊させ、火事も起こしました。東南海地震に襲われた場合、本市でもその可能性は否めないと思われます。子どもを預かる私たちとしては、もしも今回のような地震が平日に起きたら、さらには登下校中だったらと考えると背筋が寒くなります。来年度は、場面に応じたよりリアルな避難訓練を年間計画に位置付けていきたいと思っています。

深刻化する自然災害、混迷さを増す国際社会に加えてAIの進化がもたらす不透明な未来など課題は山積ですが、私たち教育に携わる者は、「子どもたちは未来そのものである」という金言を高く掲げて、本市の子どもたちを逞しく育てることに邁進していきたいと思っています。